

Sports ナガサキ

長総大付 10度目V 創成館に4-0

全国高校サッカー県大会決勝



【決勝】長崎総合科学大付(左)がミドルシュートを決めて得点

サッカーの第103回全国高校選手権大会最終日は17日、諫早市のトランスコスモススタジアム長崎で決勝が行われ、長崎総合科学大付が創成館を4-0で下して、2年連続10度目の優勝を果たした。長総大付は全国高校選手権(12月28日開幕・首都圏)の出場権を獲得。組み合わせ抽選会は18日に行われる。

長総大付は後半2分、FW松下が GKに防がれたシュートのこぼれ球を自ら押し込んで先制。1分後にドリブルで持ち込んだMF寺井のミドルシュートで2-0とすと、26分にMF宇土が頭で折り返したボールを松下がボレーで合わせて3点目。30分にFW坂本のコントロールシュートで突き放した。創成館は中盤の粘り強い守備からFW浦田らが何度か好機をつくったが、1点が遠かった。

通算6得点のサイクハント・夏香(九州文化学園)が大会得点王に輝いた。(瀧崎武)

▽決勝
長崎総合科学大付 4-0-0 創成館
▽得点者「長」松下2、寺井、坂本

【評】長崎総合科学大付が後半に大量4ゴールを挙げた。GKマカリエントは厳しく体をぶつける創成館の守備に苦しんだ前半から一転、長総大付は後半最初のFKを先制点につなげ、開賽入らずに種々果敢なミドルシュートでリードを広げた。前掛かりになる相手の背後を突いて、4点目。GKマカリエントは前半に浴びた鋭いシュートを反応よく防ぎ、主導権を渡さなかった。

創成館は中央に数を割いて球際の競り合いで互角に渡り合った。MF浦田は局面を変えるロングパスで攻撃の起点になった。

【創成館】 本水 龍 田
副監督 坂本 洋平 8004
GK DF MF FW
MF 山本 龍平 51029
MF 山本 龍平 51029

MF高橋「中盤の黒子役」として貢献



【決勝】長崎総合科学大付(左)がドリブルを阻止する

○Vを果たした長崎総合科学大付を献身的に支えたのがMF高橋。ボランチでコンを組む宇土がゲームメイクに専念できるように、後方の広い範囲をカバーし、派手な攻撃が持ち味のチームで誰よりも汗をかき、自分の役割を果たしたかかと静かにうなずいた。

先を讀んだ的確な位置取りと、それを可能にする豊富な運動量が持ち味。この日の決勝は敵味方が中盤に密集する中、こぼれ球に体を投げ出しながらピンチの球を摘み取った。「相手は中盤4人がセカンドボールを狙ってくる。そこはやはり意識した。京都市出身。中学時代のコーチが、故・小籾忠敏前監督に連れていった。「小籾先生の下に教えるを」。そんな期待を背負って長崎でサッカーに励んできた3年生。直接指導を受けることができなかったが、小籾サッカーを継承するチームにかかせない「中盤の黒子役」として信頼をつかんでいる。(瀧崎武)

後半4発 圧巻の攻撃力

ハイライト

圧巻の攻撃力だった。長崎総合科学大付は後半だけで4得点。2012年に初優勝してから節目となる10度目の頂点をつかみ取った。定方監督は「小籾先生が築き上げたものを途切らざるわけにはいかない。選手のおかげ」と白い歯を見せた。

前半を終えて0-0。押し込みながら、創成館の粘り強い守備に苦しんだ。ハーフタイムのロッカールーム。選手たちはセカンドボールを回収した後の展開や、プレスのかけ方を盛んに話しかけた。最後に定方監督が「後半立ち上がりが勝負を掛けた。」

今季掲げた目標は「県内3冠」と選手権で国立のレジェに立つ。しかし、1月の県新人大会と6月の県高総体はともに国見に阻まれた。試合前、定方監督は「1年間頑張ってきた。このまま終われないよね」と奮起を促した。22年1月に

他界した小籾忠敏前監督は県高総体を愛したと述べている。それでも、敵いを超えて冬になると無類の強さを見せた。1点を取ったから、すぐに次の1点を狙いにいった。名将がチームに刻み込んだ魂は、失われていなかった。

戦で帝京長岡(新潟)に敗れた。2度のリードを奪いながらも、後半追加タイムに逆転ゴールを許して力尽きた。2年生で出場していた主将のMF宇土は悔しさを忘れていない。「昨年の借りを返したい。粘り強く、泥くさいサッカーで(4強)以上が立てる。国立を目指す。今度こそは、過去最高成績の8強を超える。(瀧崎武)